

## 第10期第2回府中市美術館運営協議会会議録

- 1 会議名 第10期第2回府中市美術館運営協議会
- 2 開催日時 令和元年9月1日（日） 午前10時から正午
- 3 開催場所 府中市美術館会議室
- 4 出席者 （1）委員（敬称略・順不同）  
薩摩、谷矢、米谷、隠岐、寺田、江川、吉田、上村、栗原、  
松浦、松林  
（2）事務局  
藪野館長、相馬副館長、志賀副館長補佐、尾崎管理係長、  
鎌田学芸係長、武居教育普及担当主査、原田事務職員
- 5 議 題 「府中市美術館 第2期（2020～2039）の展望について」  
の審議
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 発言内容 以下、□は各委員の発言、■は事務局

□「この美術館はもうすぐ開館20年を迎える。市立の美術館としては個性的で独特の活躍をしている美術館だと思う。大抵は新聞社やメディアといった企画会社から企画を買うところが多い中、独自の企画を続けているので大変優れた美術館だと思う。また個人的には美術館の館長は学芸員か作家などの美術の専門家になるべきと思っているので、館長が美術の専門家で貫いているという点も大変評価できる。こういった運営委員会での意見も運営に非常に大きな役割を果たしているので、今日も活発なご意見など頂きたいと思います」

■「当館は昨年9月から今年の3月まで休館しておりましたが、再開した「へそまがり日本美術展」以降3回の企画展を開催しており、いずれも好評いただいております。9月には新しい、海外の目を見た美しき明治の日本というテーマで展

覧会を開催予定です。20周年を前にした展覧会が開催されますので引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます」

## 資料説明

□「数字というのは正直なものだと思う。昨年度半年間休館してリニューアルしたが、半年間つまり半分休館で入場者も半分になるというきれいな数字が出ている。北側の府中基地跡地、あれだけの土地がもったいないと思うがよく言えば都内にあれだけの緑地があるということも良い。その一部が活用されるようになってきたということ。美しき明治展は海外からの借用作品展か」

■「いえ、おかえりというのは誤解を与えたかもしれませんが、明治期に英国を始め海外の画家たちが日本にやってきて日本を描きました。その作品は紀行文の挿絵や展覧会のために持ち帰られました。そのまま長らく海外にありましたが、最近そういった作品が日本に戻ってきました。ただそういった作品は今まであまり評価されてこなかったのですが、それらを見返しますと日本人にはなかった感覚でとらえられており、日光や鎌倉などが非常に明るく美しい風景として描かれております。もう一つの明治の世界がこういう風にあるのか、ということと、日本人が描いた作品も海外にいていたものが日本に戻ってきております。それがチラシ表紙にした菊の女性ですが、これは笠木治郎吉という今までほとんど知られていなかった作家です。そういった明治の美しさが現代におかえりなさいということでタイトルを付けております」

□「大変珍しいというか、あまり注目されていなかったものが出るようなので期待している」

□「来年の動物の展覧会、しかもここだけしか開催しないと聞いている。日本と西洋の表現の違いなど期待しているが、開催まであと一年もない。会期など具体的にないで大丈夫なのか」

■「単年度予算ということもあり、予算が決定されないと動けない状況でありながら、海外展は数年前からやらなければならないという状況にあります。実際担当も苦しくて、他館の館長へのお願いですとか、半ば動き出しているのですが、非常に高額な予算が伴います。それが認められないということになりますと、まるで組み換えというか、国内作品を中心にするという形になります。その辺りは財団と違って公立館の難しいところかもしれません。担当者のプランとしては詰まったものはあるのですが、いましばらくお待ちいただきたいとは思っております」

□「五千万なにがしかの予算が下りるかどうか分からない状態ということか」

■「そのとおりでございます」

□「特にオリンピックのある年なので、海外から数多くのお客様が来られると思う。海外のいろいろな国の展覧会が動画配信サイトなどを使って内部が映像公開され、こういう作品がある、こういった雰囲気ですというのが見られて、実際にその場に行かなくても行ったような気分になれるものが増えてきている。そういう形で府中市美術館の日本の展覧会を紹介すれば、外国の方が「これを見に行こうかな」と思う可能性が増えると思う。今は手軽にスマホでもビデオがとれてしまう時代なので、作品全部ではないにしても、美術館側が紹介したいなと思う作品に関して2、3分の宣伝動画が気軽にアクセスできるような形をとると良いのではないかな。入場者数を見ると日本のものの時については観覧者数が減る、外国のものについては増えるというような傾向にあるようなので、単に皆さんの期待度というか知らないだけではないかと思う。日本人作家の紹介をそういう風に持っていけたら良いのではないかな。昔に比べると映像で紹介することについての敷居も下がっている感じがするので、その辺りで何かしてもらえたらと思う」

□「単年度予算というのは非常に悩ましいところがある。展覧会というのは2年前3年前から仕込みが始まるので、予算が4千万つくのか5千万、6千万つくのかで大変苦慮するところ。当協議会としても来年はオリンピックの年でもあり、開館20周年という年でもあるので予算がつくことを望みます」

□「毎週NHKの日曜美術館を見ており、いいものがあれば行ってみようと思う。この美しい明治展はパンフレットを見ただけでも非常に行ってみたいという感じがする。そういう番組で取り上げてもらおうと大勢の人が来るのではないかなと思う。テレビで取り上げられると効果があると思うので、テレビ局に働きかけてみるのはどうか。来年の作品展、海外の作品も入れた日本と欧州の動物の展覧会という企画は非常にいいと思うので、動画配信サイトを含むメディアを通して発信していくことは全国的に見られるので非常に効果は大きいと思う。諮問事項について、先ほどの説明を聞いても、これまでの企画展を見ても、非常に活動のレベルが高い。基本的には将来の展望ということで当初の路線を変える必要はないかと思う。ただ20年先を見据える訳なので、なにかレベルアップを図る方向でやっていくのがいいのではないかなと思う。その際にはやはり数値目標があった方が良くと思う。今の基本計画の課題というのが前回の資料にもあったが、やはりレベルの高い作品を充実させるというのがあるので、予算を増やして質の高い作品を、例えば10年間で100点購入する。その中で何か目玉になるような「府中市美術館に行けばあの作品があるね」というような、市民の方でも「あの作品を見にまた行きたいね」となるような目玉になる作品を何点か購入できるとよい。市の施設なので予算がなかなか厳しいので、寄贈を主体とするとあったがどうやって寄贈を促進するか。プロジェクトチームを組んでこれとは

いうところに頼みに行くとか、市内の企業に今後の20年を見据えてということを持っていくのも良いと思う。愛知県の豊田市美もクリムトの作品の寄贈を受けていた。入場者数は今のレベルが維持できればいいのかとも思うが、PRのために若干増やしていった方が良いと思う。人口26万人の市で20万人のりようじゃあるというのはかなり活発に活動をしているという印象を与える」

□「日曜美術館に出るとその日のうちに入館者は増える。戦略としては展覧会の半ばが良い。展覧会というのはどうしても最初と最後に入場者数が増え、中盤に減る傾向にあるが、この中盤にテレビ放送があると大変効果的で、だいたい入場者数は増える」

□「明治展は主催に日経新聞が入っているが、主催というのはどの程度の割合で費用や責任はどうなっているのか」

■「主催にもいろいろなパターンがございまして、共催というサポートに回るものや、名義共催という名前だけ貸す共催と、収入の全てを差し上げるが売り上げがペイできない場合には補っていただきたいというものを、いろいろあります。今回の場合マスコミプロモーションという費用がこれにあたり一定の責任をもって広報活動を行う契約を取り交わしております。かといって展覧会に対して圧倒的なサポートが得られるわけではなく、ただ我々単独で行う広報活動にも限界はありますので新聞社の広報宣伝力を借り、新聞広告など日経の持つメディアにて広告してもらいます」

□「日経だけ美術面は月に一度。ほかの五大新聞は毎週美術面がある。美術館経営は黒字なのか赤字なのか」

■「全国的に美術館経営は赤字です。ただその地域における観光客や府中市のイメージアップなどの効果があると自負しております。資料3にありますとおり、他の公立館と比べますと非常に高い数値であるといえます。来年度の予算要求につきましても、ただ支出が増えるというだけでなく、図録の売れ行き、へそまがい日本美術展では一般書籍でしたので売り上げの全てが市の歳入になるというわけではございませんが、我々の作った図録が世の中にどれだけ売れたかという非常に大きなものになります。社会に対する訴求力などを考慮すると歳入だけではありません。また府中の「住みたい町ランキング」への貢献なども考慮いただきたいと思います」

□「ということは美術館は市の予算の中では異様な目では見られないということか。赤字であっても市の中では容認されているということか」

■「私の個人的な意見ですが、美術館を建てる時もバブル崩壊後の冷え込みつつある中で、美術館のある街、品格のある街、ということで規模を縮小しつつも建設いたしましたので、市の中でもシンボルとして府中市美術館は堅持されいて、美術品購入基金が創設されるという追い風もございまして評価いただいております」

ます。次年度も相当な額を要求してまいります、美術館というものが他市に比べると相当に豊富であるというご理解を得たいものであります」

□「わかりました」

□「作品購入費の予算が今年度はつかなかったようだが、すぐにこれだという時に購入して欲しい。気を逃すと作品が手に入らないので。市の美術館にふさわしい作品を見つける努力をするための費用というものも必要だと思うので、そういった予算も要求して欲しい」

□「今基金はあるんですよね」

■「2億円の基金を創設して、現在残高が1億6千万円ほどです」

□「それもいずれは無くなってしまうものではあるけれど、単年度予算による購入予算化基金か、とにかくそれがないと作品が購入できないというだけでなく、アートマーケットの情報が入ってこなくなってしまう。それが大変痛い。大学の美術史の先生というのは絵の価格とかアートマーケットの情報など知らなくともできるが、美術館の運営というのはアートマーケットの情報が分からないとできない。作品の評価もできない。そういう意味ではやはり購入費というのは必要だと考える」

□「公開制作で作った作品は府中市美術館で買い上げているのか」

■「そのまま購入しているわけではありません。当館のコレクションに合ったものであれば学芸の方から提案があり、収集委員会で判断するというもので、金額についてもその場その場で判断しております。購入予定のものもございますがすべてではありません」

□「公開制作の作家さんには制作の費用は別に支払っているのか」

■「別で支払いをしております。金額交渉も含めて作家を探しているという形です」

□「補修工事をされているが、その工事についての資料がない。私が会場に入ってみて感じたのは、1階は耐震関係なので見栄えは特に変わらないが、2階の方は常設展がとても見やすくなって広がったということと、これまでは牛島に興味のある人しか入らなかったところが、とても会場に人が入っているように見えたがどうか」

■「現状を報告いたしますとそのとおりです。現在1階部分の照明は最大にすると1000ルクスを超えるくらいのライティングが可能となっており、これからのイベント開催にも活用できます。常設展示室の改修につきましては、今回の明治展でも相当数の作品を展示しておりますが、直結いたしまして常設展の半分ほどを企画展示室として活用しております。なおかつ関連の所蔵作品を展示して常設観覧料に値するような常設展の展示ができるようになりましたのは、今回の改修の成果だと思っております」

□「活動の報告としては素晴らしいし、見せていただいた展覧会も良かった。心配なことはアーカイブ。購入した作品や図書が今後増えたときにそれをどう管理していくのか、またその費用はどうするのか。デジタル化されている時代だから、本や作品がどのように保管されていくのかは別問題かもしれないが、逆に若手の作品をデジタル化してそれを共有していくのも良いのではないか。やはり本物はいいが管理など大変なこともあるし、手元で見えていいと思ったら実物を見に行こうという形になるかもしれない。その辺りの予算付けもあった方がよいのではないかと思う」

□「図書資料購入費はずっとついているようだ」

□「ぐるっとパスについて、良いアイデアだと思うがあまり知られていないのではないか」

□「牛島憲之記念館の部屋の名前は変わっていないが、ほかの作品もあることで牛島をより理解しやすくなると感じているので続けて欲しい」

□「今後20年を考えるのはなかなか難しいと思う。美術館も古くなってきて、駐車場の問題も十年くらいかかるので長いスパンで周辺整備を行わなければならないし、やはりアクセスが非常によくない。美術館をもっと市民や周りの方から来てもらうようにするには20年間お金をかけて色んな整備をしないとけないと思う。あと一つは学芸員の人数を増やして広報に力を入れる。日曜美術館には同然美術館の人は皆声をかけている、けれど日本全国の美術館が全部声をかけるので、そのなかでどうやって取り上げてもらうかというのは一筋縄ではない。NHKの担当ディレクターと仲良くなるレベルの広報のプロというか、人員組織体制も強化していかないとけない。まだまだ課題は多いので、我々委員だけでなく行政の方も色々言っていかなければならない。まだ成人したばかり。運営協議会の意見も活用して欲しい。やはり節目節目にはアピールをして大きな展覧会をやって、ここに府中市美術館あり、というメリハリを付けて欲しい。先ほどあったように借りられるか借りられないか、大きな展覧会だと5年程前から海外の美術館に行って貸してくださいと交渉をする。1年後に開催しますから貸して下さいといっても事実上無理。国内でも難しいので、そういう意味でも予算はある程度目途を立てて早くいい作品を集めていけるように。展覧会は数年かけて準備するようなものを作って欲しい」

□「海外から借用してくるような展覧会で5000万円はたいした金額ではない。例えば美術作品の輸送だけでも高額になるので、それを考えればおずおずすることなんてないと思う。素晴らしい展覧会をやっているという自信を持ってほしい。収益率では10%に満たない公立館がほとんどとのことだが、それを府中市美術館は10%を超えているし、もっと収益を出している展覧会もある。これは声を大にして言っていっていい。そもそも美術館は文化教育施設であ

るから、例えば学校や図書館の運営に採算を求めないように採算など求めてはいけない。現在はネットの時代。なんでもスマホで見られる。ホームページの運営は市の中で行っていると聞いたが、本来は単独の発信母体としてのサイトを持っていて、展覧会の広報を行ったり論文の閲覧ができたりだとか、そういったサイトが欲しいと思う」

□「美術館独自のサイトは現在無いのか」

■「市に共通のフォーマットがございまして、ユニバーサルデザイン等に配慮したサイトの中ある状況にあります。来年度のレベルアップ事業としてホームページの改修を要求しております」

□「独自サイトを持つのなら、必ず英語対応など海外客にも分かるように発信していくべき」

■「現在年間スケジュールには英訳を付けておりますが、ホームページでもそれを載せるだけでも見やすくなると思います。そういったスペースが現状無いものですので、改善していきたいと思っています」

□「ぜひ実現していただきたい。大抵どこの市、というか行政が作るサイトはデザイン的にはどうしようもないものが多いのでやはり美術館独自で作った方が良いと思う」

□「へそまがり日本美術展ではツイッターをやっていたが、ほかにはやっているのか」

■「あれは特別に出版社にしてもらったもので、美術館独自のものはございません」

□「個人的には駐車場の有料化は残念。今年は公開制作の作家が学校に来てもらう予定になっているがまだやっていない。そういうふうはこの20年、府中市美術館でわりと若手中心で公開制作でやってきたことを、美術館を通して学校、つまり府中の子どもたちに授業をするということは今後も続けていってもらいたいと思う。子どもにも種を蒔けるし、若手の作家にも種を蒔けるという意味で。公開制作でやってきたことが来年度一つ振り返りの成果として出てくると思うのでそれが楽しみで、またその二十年後を考えると今の若手の作家たちと子供たち同時に二つ種を蒔いてそれが二十年後また大きく府中市美術館が発展していくことにつながっていくのではないかと思う。そのためこういった事業はさらに進めていってほしいと思う。二年おきのぱれたん展も、私も個人的に来館しましたが、先週学校の子どもたちもつれてきたのですが、非常に子供連れがたくさん入っていて大盛況で、非常にその点でもどんどん種を蒔いて育てていくということが府中市美術館はできていると思う。アートファンの方たちが食いつくような攻めている展覧会でも、あまり美術に興味がないグレイゾーンの方たちにもいってみようかとなるような、へそまがり日本美術展はそういう面白さ

があって、非常に面白いと思った」

□「私の息子は全く図工美術に興味のない6年生だったが、府中市美術館に行った後から絵を描くようになっていい刺激をもらってきたんだと思う。義務的にではあるが鑑賞教室をさせてもらえるのは事業としてはいいのだなと親としては思う。仕事上どうしても生活に困窮している人たちと接することの方が多いので、こういう予算額を見ると私としては莫大に思うが、当たり前というような話を聞くといいのかなと思ってしまう。美術館の予算としては府中市の予算の何パーセントくらいで、例えばスポーツには何パーセントくらいの割合でかかっているのかが知りたい。市の中のパーセンテージが知りたい。

□「府中市の人口は26万人くらいだが、年間予算はだいたいどのくらいなのか」

■「市の予算総額は一千億ほどです。美術館の建築当初は市の予算も700億くらいでしたので、市の予算も膨らんできております。美術館もできた当初は予算額が4億くらいでしたが、20年たっても予算額はそれほど変わっておりませんので相対的には減っているかと。ただ折り目折り目節目の時には予算要求をいたしまして認めていただいております。理解があるからと言って毎年潤沢に予算がつくということではなく、毎年減ってはいる状況です。しかし毎年入館者数は増えており、物販の方も含めまして収益は伸ばしているという状況です」

□「これだけの美術館を持っている市はほかにそうそうない」

□「少なくとも中央線沿線にはちゃんとした美術館がない」

□「なのでもっと予算をとって、もっと良い美術館になればと思う」

■「最近では調布や北多摩の方からも鑑賞教室の打診がございます。府中市のためには思っておりますけれど、近隣の学校の要望にも応えてまいりたいと思います」

□「多摩地区だと世田谷、町田、府中が頑張っている」

□「世田谷は人口も多い。似ているような感じではあるが、あそこはレストランが良いので。府中市美術館はレストランがダメなので改善して欲しいところ」

□「世田谷美術館はレストラン独自で運営できるようにしたので、美術館の開館時間と関係なく運営できるのが良かったのだと思う。府中も切り離せるとよくなるのではないかとはいえるけれど。この辺りは考えていかなければならないところ」

□「前回の協議会でもみなさんいいことを色々とおっしゃっていて、あるいはこうしたらいいんじゃないかということが出ているが、実施しているのかどうか分からない。同じ議論を繰り返しても仕方がないので、前回の答申で出た事項について、次回までにどういう風に美術館や行政が答えてくれているのかという回答を欲しい」

□「前回の答申も良くまとまっているけれど、そのとおりに改修されたのかとい

うと必ずしもそうではない。当面は府中市美術館はインスタ映えするような建物ではないので中身で勝負するしかない。美術館というとインスタ映えするような外観のものが多いが、ここはそうではないので」

□「答申書は実施義務のあるものではないけれど、しかし出しておくことは大切だと思う。確かに和式トイレの洋式化やエスカレーターの問題など、時代も変わってきているのでそういうところでハードも変えていかなければならないのかと思う」

□「館名のロゴについて、美しき明治と公開制作では違う、封筒のロゴもまた違って、年間スケジュールとも違っている。これは統一した方が良いと思うが、あえて使い分けているということなのか」

■「ロゴにつきましては、ご指摘の通りそれぞれ異なりまして、開館当初は封筒のロゴに統一していたのですが、縦書きであったり横書きであったり、また江戸展の時には和風であったりということでした、開館の時に学芸の方で会議をしましてそれぞれでいくという結論になりました」

□「今の質問は鋭い。今まで一度も出てこなかった質問。確かにバラバラといえはバラバラ。それぞれの展覧会の個性に合わせて違ってくることはあるにしても、個性を出すかその中にもある程度の統一感を見出していくのか。難しいところであると思うが検討の余地はあるかと思う。こういう分野はどこまで個性で行くのか、そのなかにどう統一イメージをつくるのかというのは常に考えなくてはならないところ」

□「小中学校の校長会という立場から、教育現場と美術館をつないでいただいて、日ごろから意見を吸い上げていただいたり、色々と有益な情報を早めに伝えていただいたりしながら教育を頂いている。毎年小中学校全校の児童を対象に美術鑑賞教室を実施していただいているところも、子供たちにとっては幸せな環境だと常々思っている。「府中市美術館に行ったことがある人」と学校で聞いてみたところ、年によって多かったりほとんどいなかったりというようなばらつきもあります。今後十年二十年を考えたときに、これだけ立派な施設で、しかも学芸員が各校各校、各クラスごとにもついでにいただいて、本物に触れる価値というものを体感するというのは、やはり生涯をかけて美術に触れる、ある子どもたちにとっては最初の入り口になると思う。これから二十年と考えていったときにこの美術鑑賞教室をきっかけに、例えばリピーターになったとか、それをきっかけに最低一回は足を運んだ、次は中学校でまたそれがきっかけになったというような、何か傾向が詳しい調査でなくでもこの十年の帖佐ができれば結果が知りたい。会の冒頭にもあったが Web 等の活用をした方がよいというのがあった。ここから先は個人的な考えだが、去年の夏に小中学校のホームページが一律化されて、どこもだいたい同じデザインで、リンク先もむやみやたらと貼れな

い状況があった。私が考えるに美術館でも郷土博物館でも、子供たちが一回体験してお世話になったところのリンク先があれば、日常的に子どもたちや保護者の方がホームページを見ていま何をやっているかがすぐにわかる。それが子どもの興味をひくような内容であれば、リピーターの割合がどれくらいなのかといったことも含めて、今後の身近なきっかけにはできるのではないか。ただそのしくみは現在教育センターで一括してやっているし、学校とかかわっている教育関連の機関も市内にはたくさんあるので、どこか一つが突出して美術館と関わるということはできないと思うが、今後何年かかけてすり合わせをしていきながらより身近に情報を得て足を運ぼうというきっかけの一つにはできるのではないかと思う」

■「鑑賞教室の効果につきましては、東京都中学校美術教員の集まりがありまして、当館で授業を行いまして市の学生に協力を頂いて先生方の鑑賞教室を考える、という時にお聞きしましたのですが、府中の子どもは作品に対するレスポンスが率直であって早いとのこと。この作品についてどう思う、と聞いたらぼんぼんとすぐに返事か返ってくるというのは何故なのでしょうというお尋ねがあった中で内心思いましたのは、鑑賞教室ということで作品との隔たりを少し低く感じているのかもしれないということです。また博物館実習を実施しておりますが、その中でも鑑賞教室を経験してそれから美術の方に進みここに実習に来られてよかったという意見を聞くと、一回りしたのかなという気がしております。学芸員の採用試験の時にも「鑑賞教室でお世話になりました」といわれると本当に一回りしたような気分にもなりました。やはり鑑賞教室ということで作品鑑賞に関する敷居が低くなったということは、よその美術館に出かけていくきっかけにもなり、ここだけの成長だけではなくその後に影響するのかなと、数字ではありませんが実感としてあるという感じになっております」

□「府中市美術館は鑑賞教育の活動が非常に活発だと思う。今は変わっていつているのかもしれないが、いわゆる日本の小中学校での美術教育というのは実技主体で、あまり鑑賞のことはやっていない学校が欧米などと比べると多い。全員が全員美術を好きになる必要はないが、最初にちょっときっかけを与えると、なにかそのことでこういう世界があったんだと興味を持ってくれる子供がいるので、これはやはり大事なことだろうと思う。そうすることで少しでも人生が豊かに、という大げさかもしれませんが楽しくなってくれば大変に素晴らしいことだと私も思っている」

□「5千万円の予算の確保が喫緊の課題だという話があったが、次の会議が半年後になってしまうので何か決をとる必要はあるのか」

■「本日頂きました話は、予算要求の際にこういった意見が出いるという資料とさせていただきます。ご決議いただくようなことはございません」

□「今回の議事で予算要求の時ということなら、われわれ運営委員一同が全会一致で予算を必要としているという意見になる」

□「オリンピックの年なので、オリンピックというのはその期間自体はオリパラ含めて1か月程度だが、そこにくる選手や観客をターゲットにするのではなく、数か月前からくる事務局や各国報道陣をターゲットにするとよい。事務局の人間は仕事をしながら土日などの休みの日にはいろんなところへ出かけるし、報道陣はオリンピックの取材へ来るとはいえ、その国のことを同時に取材するので、その中になるべく食い込むようにしていった方がいいと思う。そのためにもお金は必要になるので、要するにオリンピックの年であり20周年の年であるということで沢山予算を付けていただきたいということは強くこの協議会として進言したいと思う」

□「ブリティッシュカウンシルとの共催ということになっていて、表紙などに英語があり外国の方が見てもどういう展覧会か分かるが、中を見るとほとんど英語がなくなってしまうのは残念。チラシは残るので、たとえば次年度海外から来られた方が「こういう展覧会をしたんだ」と思っても中を見たら日本語だからわからないという問題がすごくある。できれば本当は英語バージョンを作るといような、せつかなのでいい企画だと思うし外国の方へもアプローチが可能だということを心がけてもらえたらと思う」

□「英語くらいならすぐにできるのではないか」

□「最近では翻訳を安く請け負うところもあるし、そんなに難しいことではない。一度英訳すれば、後々ビデオ番組を作る時でもそのテキストをそこに張り付ければよいので、作っておくと後々海外発信が楽になると思う」

■「市の歴史の本が今度出のですが、それには英語と中国語と韓国語、ドイツ語、フランス語が全てのページに併記されていますのでそれが前例になると思います。これから多言語化についても実現していくと思います」

□「東京の国立の美術館や博物館に行けば、中国語や韓国語など多言語で対応している」

□「オリンピックに向けて国の機関は英語、中国語、韓国語については実施する方向で動いている。しかしこれも紙ばかり増えてしまっただうかという意見もある」

□「資料4で人数に関する資料が出ているが、見るのなら入館者アンケートの集計結果が見たい」

□「協議会委員のなかに高校の先生がいない。高校とも交流を持ちたい。インスタ映えするようなイベント、たとえば音楽や書道をやったら若い人も来てくれるのではないか」

■「次回は12月の開催を予定しております。その後翌年5月ごろに小委員会を

開催しまして 7 月に第 4 回協議会を開催し答申を提出していただく予定です」